

# 2009 年度事業報告（案）

## 1. 事業報告全般：

会員が所属する機関において組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり、協会を取り巻く状況も厳しさが増している。このような状況下で、魅力ある協会とすることを大きな検討課題として、年間の諸事業を通して地道な事業を推進しているところである。

- ・会員増強対策への取り組み

会員拡大策の一環として、維持会員向け無料セミナーの開催、セミナー参加費の割引など各会員への特典制度を設け実施した。

- ・公益法人制度改革法案が公布されたことに伴い、当協会の移行に関する準備活動を開始した。

協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業（講習会、シンポジウム、情報検索能力試験を含む）をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。主な実績は次の通りである。

- ・会誌刊行については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行が達成された。また、委員会レポートや情報検索能力試験実施など、協会活動の紹介を行った。今後もこのような協会活動の記事を掲載し、会員にとって身近な会誌を目指したい。また、経費削減の一環として、発行形態の変更などを検討し、次年度からの改善を可能とした。

- ・出版事業については、既刊の「情報検索の知識と技術」および「情報検索の基礎知識」の販売を継続し、情報検索能力試験事業に大きく寄与できた。しかしながら、新規出版物の企画・発行などを検討する常設の出版委員会の体制については次年度の課題となった。

- ・研修事業については、研修委員会および西日本委員会の活発な企画・推進により、会員の注目するセミナー、見学会を実施できた。また、企画力強化のために両委員会の委員構成を充実させ、相互の情報交換を行った。

- ・情報検索能力試験については、今年度も通常の公開試験会場と併せて8会場の個別試験会場で実施した。本試験に関する普及活動に努めている。試験内容、方法につきさらなる検討が必要である。

- ・第6回情報プロフェッショナルシンポジウムは、多くの参加者を仰ぐことができた。特に維持会員は今回も招待とし好評であった。また、今回もプロダクト・レビューを開催し好評を得た。

- ・研究会としての OUG（4 分科会）、SIG（5 部会）については、活発な分科会、部会が開催された。情報プロフェッショナルシンポジウムでの研究成果の発表やポスター展示などを行った。新規委員増や部会・分科会体制の充実が一部課題となっている。

- ・2008 年度の評議員会に「パテントドキュメンテーションへの具体的取組み」が諮問され、2009 年度に、委員会組織として「パテントドキュメンテーション委員会」を設置し、セミナーの開催および書籍発行の検討を開始した。

- ・事業受託として、日本図書館情報学会の「図書館情報学検定試験 2009 年度準備試験」の運営に係る業務を受託した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場と大阪会場で実施した。

## 2. 2009 年度役員および担当 (○は 2009 年度選出)

### 理事 (東日本地区)

- 小河邦雄 OUG
- 小野寺夏生 会長、運営委員会委員長、事業推進委員  
川村剛 副会長、事業推進委員会 (正)、運営委員
- 佐藤京子 SIG  
清水美都子 運営委員、パテントドキュメンテーション委員会 (副)、事業推進委員
- 鈴木博道 複写権問題対策委員会  
真銅解子 副会長、運営委員、事業推進委員、表彰者選考委員会委員長  
棚橋佳子 著作権問題委員会
- 田村紀光 専務理事事務局長、運営委員、事業推進委員  
時実象一 出版委員会 (正)
- 原田智子 試験実施委員会 (正)、運営委員  
松谷貴己 パテントドキュメンテーション委員会 (正)、事業推進委員
- 望月聖子 試験実施委員会 (副)
- 山崎久道 会誌編集委員会 (正)  
山下 浩 広報、事業推進 (副)、会誌編集委員会 (副)
- 吉井隆明 研修委員会、出版委員会 (副)、運営委員会

### 理事 (西日本地区)

- 河塚幸子 西日本委員会  
高橋和子 西日本委員会
- 三村智子 西日本委員会  
村山博一 西日本委員会

### 監事

- 藤井信栄  
松下 茂

### 評議員 (東日本地区)

- 小山内正明 北島由紀子 木村美実子 小陳左和子 ○荘司雅之 ○立花 肇  
○土谷 久 長縄友子 ○林 和弘 ○平井邦造 藤村和男 ○山本外茂男

### 評議員 (西日本地区)

- 麻生剛之 ○稲葉洋子 入江正美 ○岡 紀子 ○田窪直規 ○田中邦英  
中江貴彦 増田知子

### 3. 会員異動

種別	2008 年度末	入会	退会	増減	2009 年度末
維持会員	64	6	12	-6	58
特別会員	121	3	2	1	122
普通会員	1,296	123	181	-58	1,238
学生会員	35	4	9	-5	30
合計	1,516	136	204	-68	1,448

### 4. 会議開催状況

#### 1) 通常総会 -----1 回

第 52 回通常総会および協会賞表彰式 2009 年 5 月 27 日 (水)

議題：

① 2008 年度事業報告および決算報告

② 2009 年度事業計画案および予算案

③ 2009 年度～2010 年度役員選挙

④ 第 34 回情報科学技術協会賞表彰

・情報業務功労賞 桐山勉氏

・教育・訓練功労賞 岡紀子氏

・協会事業功労賞 研修委員会

⑤ 永年普通会員 柿沼隆志氏、貞田睦夫氏、寺村由比子氏

#### 2) 理事会 ----- 6 回

#### 3) 評議員会 ----- 1 回 (2010 年 3 月 4 日 (木))

#### 4) 委員会

運営委員会 ----- 6 回

シンポジウム実行委員会 --- 4 回

表彰者選考委員会 ---- 1 回

認定試験実施委員会 ----- 7 回

事業推進委員会 ----- 5 回

著作権問題委員会 ---- メーリングリストにより実施

会誌編集委員会 -----12 回

複写権問題対策委員会 -----2 回

研修委員会 - ----- 4 回

標準化委員会----- 1 回

西日本委員会 -----5 回

### 5 刊行事業

#### 5. 1 会誌刊行事業

2009 年度も安定した発刊 (当月 1 日) を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、情報担当者の世界で話題になっているトピックを幅広く取り上げることができた。特集内容は若干図書館分野に偏りがちな傾向はあるが、編集委員会内でもこの点は留意し、他誌では扱い難いトピックを取り上げるなど工夫を凝らしている。その一方で、定期的に掲載している情報検索能力試験報告に加え、協会関連の研究会やセミナーの報告などを数多く掲載するよう工夫し、協会活動の周知にも力を入れた。

2008年4月号から2009年9月号まで連載企画として掲載した「オンライン情報検索：先人の足跡をたどる」は日本における情報検索システムや情報検索サービスの歴史を記録としてとどめようとする試みである。読者からも大きな反響があり、協会ホームページ上でPDFファイルを公開した。

投稿記事は2009年4月から2010年3月の間に4本掲載した。本数こそ少ないものの、特集では実現し得ないトピックの紹介や会員間の情報共有の場として効果的に機能していると言えよう。

本誌は国立情報学研究所が運営する論文情報ナビゲータ(CiNii)を通じて、発行6ヶ月経過後に本文を公開している。さらに、2008年4月より、会誌発行の翌月から6ヶ月までの5ヶ月分についても有料で公開している(会員は無料)。

会誌編集委員会では、これまで手薄であった西日本地区の情報を広く収集するため、西日本委員会の協力のもと「会誌編集協力員」という制度を設け、2名をこれに任命している。協力員は電子メールベースで委員会に参加するとともに、年2回の企画会議に出席している。2009年からはこれに加え、研修委員会委員長にも企画会議への出席をもとめている。各事業委員会との情報共有・意見交換を進めることで、より多角的な視点による特集が実現できるものと考えている。

#### 【特集】

2009年

- 4月号 ファクトデータベース
- 5月号 インフォプロ：過去・現在・未来
- 6月号 外国雑誌再考
- 7月号 情報リテラシー
- 8月号 情報バリアフリーとしてのユニバーサル・サービス
- 9月号 エンタープライズサーチ
- 10月号 インフォプロのための企画・立案
- 11月号 歴史地理情報システムの活用
- 12月号 海外の図書館法と図書館関係立法

2010年

- 1月号 企業の情報部門の現状と展望
- 2月号 資料保存：メディアの劣化と対策
- 3月号 第6回情報プロフェッショナルシンポジウム

【連載】 オンライン情報検索：先人の足跡をたどる (2009年9月まで)

【コラム】 Infosta Forum (継続連載中)

## 5. 2 一般刊行事業

今年度の一般刊行事業については、既刊出版物の増刷での販売を行ってきた。情報検索能力試験対策のテキストとして、『情報検索の知識と技術』および『情報検索の基礎知識』は2010年度に改定を行うべく検討および作業を進めた。また、パテントドキュメンテーション委員会企画で、特許調査の実務者向け書籍の刊行を検討し、2010年度の刊行を予定。

「INFOSTA ブックレット」シリーズについては、既刊書の発売は継続するものの、新規書籍については、発行に至らなかった。

## 6. 普及研修事業

### 6. 1 研修会・セミナー

今年も大阪、東京の両地区で情報検索能力試験向けセミナー（情報検索応用能力試験 2 級および情報検索基礎能力試験）を行い、受験対策および受験者獲得に貢献した。また、一般セミナーとしては著作権、パテントマップに関するものを行った。定番化した新年会セミナーではホテルのホスピタリティについて講演をいただき、コミュニケーション力を磨く上で参考になった。見学会としては、千代田図書館見学を実施した。引き続き西日本委員会と研修委員会で積極的に情報交流を行い、著作権セミナーやパテントマップセミナーは東西の積極的な連携によって開催した。さらに、今年度よりパテントドキュメンテーション委員会の研修企画にも協力して、知財・技術情報活用のセミナーを行った。

#### 研修一覧

名 称	期 日	会 場	参加者数
維持会員限定 見学会:東芝	7月3日	東京	15
情報検索基礎能力試験対策セミナー	8月29日	大阪	16
情報検索基礎能力試験対策セミナー	8月29日	東京	57
サーチャーク講座 21	9月5-6日	大阪	30
サーチャーク講座 21	9月26-27日	東京	55
化学物質データベースセミナー	9月16日	東京	119
見学会 大阪大学	10月29日	大阪	13
Excel を用いた パテントマップ入門講座	11月11日	大阪	18
Excel を用いた パテントマップ実践講座	11月18日	東京	18
事業視点の知財・技術情報活用	12月1日	東京	12
著作権の基礎から学べる実践セミナー2009	12月18日	東京	43
著作権の基礎から学べる実践セミナー2009	2010年1月22日	大阪	25
新春セミナー: 情報部門のためのホスピタリティを考える	1月15日	東京	41
見学会 千代田図書館	1月21日	東京	20
特許・超入門講座	2月20日	大阪	15
初心者のためのインターネット情報探検セミナー	3月26日	大阪	24

### 6. 2 シンポジウム

INFOPRO2009 は、(独) 科学技術振興機構との共催により、2009年10月14日～10月15日の2日間、日本科学未来館で開催した。

特別講演、トーク&トークおよび一般発表など、充実した内容となった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、プロダクト・レビューを開催した。各社のプロダクト・レビューおよび展示コーナーでの商品展示を開催し、好評であった。

・特別講演は、吉川弘之氏 ((独) 科学技術 振興機構研究開発戦略センター長) による『イノ

バージョンにおける情報専門家の役割』の演題で行なわれた。

- ・トーク&トークは、『ワンランク上のインフォプロ』を開催した。3名の話題提供、参加者とのトーク&トークとして盛況であった。その後、「トーク&トーク ランチセッション」を開催、3名の話題提供者と一般参加者でランチをしながらの交流を行った。
- ・一般発表 : 22 件
- ・プロダクト・レビュー  
8社によるプレゼンテーションと展示コーナーでの商品説明など
- ・INFOSTA 研究会 (OUG および SIG) のポスター紹介を行った。

### 6. 3 情報検索能力試験

2009年11月22日に、8箇所の公開試験会場と8箇所の個別試験会場で実施した。一級の二次試験は、2010年2月21日に東京で実施した。

個別実施会場も8箇所まで増加して、公開試験会場へ出かけることなく、地域の大学などで開催できるなど、好評であった。

受験者への対応としては、テキストに基づく講習会につき、東京地区および大阪地区で開催に協力した。また、基礎能力試験については、マークシートを採用し、採点作業などの効率化を図った。さらに、試験拡大につき、情報課程の大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館への広報活動を行った。

受験申込者数は、1,142名(前年 1,209名)であった。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区(3月5日)と大阪地区(3月6日)で開催した。

#### 1) 2009年度「情報検索能力試験」実施結果

(カッコ内は2008年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率
基礎	826名 (805名)	682名 (669名)	82.6% (83.1%)
2級	204名 (279名)	91名 (129名)	44.6% (46.2%)
1級	28名 (23名)	7名 (6名)	25.0% (26.1%)
合計	1,058名 (1,107名)	780名 (804名)	

試験地:

- ・1級一次・2級: 東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば
- ・1級二次: 東京
- ・基礎(公開会場): 東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば
- ・基礎(個別会場): 九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、広島市立図書館、昭和女子大学

## 7. 調査研究事業

### 7. 1 受託調査・事業

- ・受託調査はなかった。
- ・受託事業として、日本図書館情報学会の「図書館情報学検定試験 2009 年度準備試験」につき、試験運営に係る業務を受託した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場と大阪会場で実施した。

実施日：2009 年 11 月 22 日

会場および受験者数：東京会場（中央大学）：104 名、大阪会場（関西大学）：79 名

### 7. 2 標準化活動

#### 1) 標準化委員会

9 月 30 日に委員会を開催し、JIS 規格 5 年目見直しを検討し、1 件につき継続することとし、日本規格協会に回答した。

- ・ JIS X-0901 シソーラスの構成及びその作成方法

#### 2) 科学技術情報流通技術基準 (SIST) 委員会に委員を派遣した。

### 7. 3 著作権活動

#### 1) 著作権問題委員会

著作権についての普及活動の一環として研修委員会に協力して、著作権法の改正に対応した「著作権の基礎から学べる実践セミナー 2009」(12 月 18 日東京、1 月 22 日大阪) を開催した。

#### 2) 複写権問題対策委員会

今年度は、急遽発生した「フェアユーズ」の検討により権利制限などの INFOSTA から提起している著作権法改正課題が脇に追いやられ、注視していないと、どの様に整理され決まってしまうのか、予測しかねるような状況であった。委員会の頻繁な開催はできなかったが、メールその他での情報交換を続けており、3 名の新たな委員を追加委嘱することで陣容の充実化を図り、2010 年度への体制を整備した。

## 8. その他の委員会、事業活動

### 8. 1 広報活動

会誌での研究部会活動の紹介 (OUG, SIG) 、メールマガジンの発行など継続的に進めた。

さらには、ホームページからの入会および会誌、書籍注文につき、継続的に改善を図った。引き続き次年度へ継続していきたい。

### 8. 2 西日本委員会

西日本委員会は 12 名の委員で構成し、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。

#### (1) 委員会の開催 (年 6 回)

普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。

## (2) 普及研修事業

[講習会 6件]

### ① 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー

- ・2009年8月29日(土)、大阪産業創造館 講師：河塚幸子氏(近畿大学非常勤講師)
- ・参加者：16名

### ② サーチャー講座 21：情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー

- ・大阪会場：2009年9月5日(土)、6日(日)、大阪産業創造館
- ・東京会場：2009年9月26日(土)、27日(日)、総評会館
- ・講師：岡紀子氏(株式会社住化技術情報センター)、田中邦英氏(株式会社インダ)
- 三村智子氏(DIC株式会社)、池田剛透氏(多摩大学)
- ・参加者：85名(東京55名、大阪30名)

### ③ Excelを用いたパテントマップ入門講座

- ・2009年11月11日(水)、大阪大学中之島センター
- ・講師：野崎篤志氏(日本技術貿易株式会社 IP総研)
- ・参加者：18名

### ④ 著作権の基礎から学べる実践セミナー2009

- ・2010年1月22日(金)、大阪市中央公会堂
- ・講師：南亮一氏(国立国会図書館)
- ・参加者：25名

### ⑤ 特許・超入門講座 特許アレルギー解消をめざして

- ・2010年2月20日(土)、大阪市中央公会堂
- ・講師：田中邦英氏(株式会社インダ)
- ・参加者：15名

### ⑥ 初心者のためのインターネット情報探索セミナー

- ・2010年3月26日(金)、大阪産業創造館
- ・講師：河塚幸子氏(近畿大学非常勤講師)
- ・参加者：24名

[見学会 1件]

- ・2009年10月29日(木) 大阪大学附属図書館 ラーニング・コモンズ
- ・参加者：13名

## (3) 会員交流活動

### ① じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会」との共催で、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・2009年12月4日(金)、大阪市中央公会堂
- ・話題提供者：小林隆志氏(鳥取県立図書館)
- ・テーマ：県民に必要と認知される図書館を目指して



・参加者：32名

②2009年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・2010年3月6日（土）、大阪科学技術センター
- ・祝賀先輩サーチャーのお話：松山千秋氏（京セラ株式会社）
- ・参加者：1級1名、2級5名、基礎2名

③「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。ディスカッションを中心とした研究会を2回開催。

テーマ：「困ったさん、大集合。お悩み解決、図書館員の底力。」

「企業活動と著作権 日常業務の視点から」

### 8. 3 パテントドキュメンテーション委員会

2008年度の評議員会の諮問を受けて、2009年度に同委員会を立ちあげた。

委員構成は、SIG、OUG 特許分科会の協力を得て、各会から選出された委員を含め、委員4名、担当理事2名の計6名である。

2009年度は、6回の委員会を開催し、下記の研修や企画につき検討を行った。

(1)特許調査に関する人材育成研修

- ・「事業視点の知財・技術情報活用」セミナーの開催
- ・「特許調査に必要な知識」シリーズ研修の企画

(2)特許調査に関する刊行物

- ・会誌：特許関連「特集」について会誌編集委員会と共同で企画
- ・書籍：特許調査の実務者向け書籍の企画

(3)その他

- ・会誌編集委員会、研修委員会等の各部会との連携体制の構築

### 8. 4 表彰者選考委員会

第34回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 桐山勉氏
- ・教育・訓練功労賞 岡紀子氏
- ・協会事業功労賞 研修委員会
- ・永年普通会員 柿沼隆志氏、貞田睦夫氏、寺村由比子氏

## 9 部会関連事業

### 9. 1 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、以下の分科会報告を参照されたい。また、INFOPRO2009においてOUGのPR活動の一環としてポスター展示を実施した。

- (1) 化学分科会 （主査：鈴木理加氏） 開催8回

## ①例会開催報告

2009年

- ・4月：勉強会 化学系企業を比較する
- ・5月：勉強会 化学系企業を比較する
- ・6月：勉強会 化学系企業を比較する
- ・7月：DB説明会 Scopus と illumin8 (エルゼビア・ジャパン)
- ・12月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会

2010年

- ・1月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く
- ・2月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く
- ・3月：勉強会 検索事例を活用する

②情報検索応用能力試験 試験問題2級前半の解答例をホームページに公開

③例会300回記念 化学物質データベースセミナーを開催

2009年9月16日(水) 科学技術振興機構ホール 119名参加

- ・日化辞 Web の連携活用について (独立行政法人 科学技術振興機構)
- ・化学物質総合情報提供システム (CHRIP) (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・REGISTRY の30年 (社団法人 化学情報協会)
- ・合成化学研究者のための反応・化合物データベース (エルゼビア・ジャパン株式会社)

(2) ライフサイエンス分科会(主査：西内 史氏)：10回開催(第268回～277回)

(8月、11月：休会)

①講演会：7回

2009年

- ・4月 医中誌 Web のバージョンアップ、今後のサービス展開について
- ・6月 JMEDPlus ファイルの索引と検索
- ・7月 STN ライフサイエンス系ファイルの強化
- ・10月 EMBASE.com のリニューアル、illumin8 (イルミネイト) の紹介
- ・12月 Ovid Medline 1950-Daily Update、OvidSP バージョンアップの変遷

2010年

- ・2月 JAPIC 医薬品と対応疾患名データベースについて、医薬品情報ナビの紹介
- ・3月 Springer 社データベース (Protocols、SpringerImages、SpringerMaterials、その他ツール) の紹介

②検索演習：1回

2010年1月 検索演習

- ・カプトプリルの副作用を認めなかった事例について精度の高い検索をしたい(国内・海外)  
(単に副作用の記載がないというのではなく、なかったという記載のあるもの)。
- ・新型インフルエンザ (A/H1N1) の米国内でのタミフル耐性化状況の文献(国内・海外)
- ・抗癌剤における経口投与とポンプを使った静脈内投与との比較で、ポンプを使った静脈内投与の方が優れているという文献(国内・海外)

③情報交換：1回（2009年5月 無料お役立ちホームページの情報交換）

④見学会：1回（2009年9月 国立保健医療科学院図書館の見学）

(3) インターネット／ビジネス分科会（主査：渡邊 晃氏）

開催：計9回（8, 2, 3月を除く各月。於：協会会議室）

①新分野の企画にかかわる研究（4月。前年度8月から継続のテーマ）

光触媒を使い家庭内で水から水素を取り出して利用する事例について、水電解水素発生部に対するシーズ・ニーズ(SN)の抽出、SN変換を検討し、先行技術を調べた。

【成果】家庭用に対する技術的な課題・解決手段の情報、家庭用「水の光分解装置」の個別ニーズの類別と課題への展開、本テーマ内容を含む公開特許情報

②特定分野を対象とするウェブサイトと内容の研究（5～11月）

- ・最近の各種ポータルサイト（ビジネス調査場面中心）（5月）
- ・役立ち情報サイト（特許情報DBの検索・分析；文書作成・表計算ソフトの使い方）（6月）
- ・特許情報検索サイト（Google PatentsとUSPTO）の機能比較（7月）
- ・英和機械翻訳の精確性比較（9月）
- ・鉱物資源、特にレアメタルに関する動向情報（10月）
- ・航空輸送に関する統計の掲載サイト、データ内容、出所（11月）
- ・電気自動車の生産規模予測と主流方式の推測（12月）
- ・言語をよくは知らない国の統計データの探し方（翻訳検索の適用例）（1月）

③紹介・交換した情報例（研究テーマ以外）

【情報ガイド】Free Online Library（英語の無料ウェブ図書館）、ipl2: information you can trust（情報に関する英語リファレンスサービス）、電子政府の総合窓口 e-Gov（官報、白書・年次報告書等、法令外国語訳DBシステムほか）、リサーチ・ナビ/国立国会図書

【ポータル・リンク集】Chem-Station データベース（化学系）、Online Research Portal（調査報告）、時計台 NET（大学生・院生向け総合リンク集）

【辞書類】Thesaurus.com/Dictionary.com, LLC、石油・天然ガス用語辞典/JOGMEC

【新聞・ニュース】NEWSTRAN.COM（世界の主要紙記事の機械翻訳）/ワシントンポスト社、国際ニュース・早読み/宮崎正弘氏、雑誌の新聞/データム社

【各種情報】J-GLOBAL 試行版（研究者、文献、特許などの情報）/JST、Kamome Search（経済産業省技術戦略マップ2006検索）/産総研、著作権法ガイド/伊藤サム氏、特許DB比較/京都大学附属図書館

【エンジン機能・技術動向など】bing 日本β版/マイクロソフト、Cuil（文脈検索）、PowerSet（自然言語検索）、vizoo（経済情報、統計情報などのグラフ化）、Wolfram Alpha β版（Googleキラー）、2lingual Search（任意2言語サイトの同時検索、並列表示エンジン）、コトバノウチュウ（話題のコトバから情報収集）、調査報告書「インターネット社会における検索技術」/特許庁、ほか

(4) 特許分科会（主査：馬場淳子氏） 開催12回 原則として毎月第2金曜日に開催。

下記の分科会を開催した。

2009年

- ・4月：調査に関するQ&A

- ・ 5月：E P 移行国に関する調査の事例紹介
- ・ 6月：日本、米国、ヨーロッパにおける特許分類を付与する演習
- ・ 7月：ベンダー訪問  
特許情報データベース「Shareresearch」と「SRPAERTNER」の説明会
- ・ 8月：検索演習「“無洗米” についての技術動向調査」
- ・ 9月：検索演習「“無洗米” についての無効化資料調査」
- ・ 10月：合宿（エーザイ佐島保養所）  
検索演習「“無洗米” についての侵害予防資料調査」
- ・ 11月：特許解析（オープンパネルディスカッション）
- ・ 12月：「報道発表」から、それに関連する特許を探す！

2010年

- ・ 1月：鈴木利之先生の講演  
演題「日本特許文献の特許分類の使い方と探し方」
- ・ 2月：講演とディスカッション  
議題「情報検索技術者に求められる能力とは」  
独立行政法人 工業所有権情報・研修館(INPIT)  
人材育成部長 渋谷善弘様他のご講演
- ・ 3月：キーワードの探し方

## 9. 2 SIG

専門部会（Special Interest Group, 略称：SIG）は、特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として1984年10月に発足した。現在は、技術ジャーナル部会、パテントドキュメンテーション部会、分類／シソーラス／Indexing 部会、Web サイト研究部会、ターミノロジー部会の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動している。2009年度の各グループの活動は以下の通りである。

- (1) 技術ジャーナル部会[会員企業：13社(コアパーソン：持ち回り)] 年5回開催  
部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

2009年度の主な活動

- ・ 第1回 ・企業の公式発行物としての技報法編集
- ・ 第2回 ・特集テーマ・論文の企画～決定の流れと査読の取り組み
- ・ 第3回 ・魅力ある特集・論文への取り組みと査読のポイント
- ・ 第4回 ・2010年度事業計画の検討、会誌記事について検討
- ・ 第5回 ・会誌記事について検討

- (2) パテントドキュメンテーション部会 会員 8名(コアパーソン：桐山 勉氏) (毎月開催)

- ①「初心者のサーチャーは何故、特許情報の検索で困るのか？－原因と解決法の見える化－」  
をINFOPRO2009シンポジウムにて発表した。(8年間連続して部会活動の成果を報告)

- ②協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を継続公開した。また、INFOPRP2009 シンポジウムでパネル展示に参加した。
- ③大阪工業大学の SNS にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
- ④ World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。
- ⑤特別研修会を伊豆、熱川温泉にて1月下旬に開催し、伊豆高原のバスツアーを行った。夜には、INFOPRO2010 の発表に向けて、下記の2点の企画案について討議した。
  - 1) 指南車（トヨタケーラム社）による検索技術の伝承と教育
  - 2) 特許評価システムの研究（パテント・リザルト社の Biz Cruncher など）
- ⑥外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣
  - 特許検索競技大会 2009 の実行委員会（1名派遣、2008年に引き続き継続派遣）
- ⑦メンバー間のトピックス情報交換
  - IPI-ConfEX2009、米国 PIUG2009、EPOPIC2009、EMW2009 などの関連情報。特許評価法 YKS 法などのセミナー受講の紹介など。
- ⑧プロバイダーデモ勉強会の実施
  - 1) トヨタケーラム社の指南車（市川氏）（11月度部会）
  - 2) パテント・リザルト社の Biz Cruncher（本田氏）（12月度部会）

- (3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 会員：18名（コアパーソン：山崎久道氏）（毎月開催）
- インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、研究している。メンバーは、研究者（検索、図書館などの実務経験者が多い）、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、システム関係者、などである。8月を除く毎月1度の割で例会を開いて、凝縮された討論を行い、議事録を作成して結果を共有している。2009年度は、以下の内容で行った。
- ①情報検索や書物に関する最近の一般文献のブックレビューと討論
  - ②JST 提供の J-GLOBAL サービスの JST による説明と意見交換
  - ③当分野の海外の学術雑誌掲載の論文の輪読
  - ④FRSAD Conceptual Model (2nd Draft) の紹介と検討
  - ⑤（特別合宿）『インターネットはいかに知の秩序を変えるか』（D. ワインバーガー著）の批判的検討（会誌 2010 年 5 月号で討論内容の一部を報告する。）

- (4) Web サイト研究会 会員：10名（コアパーソン 橋田昌明氏）（毎月開催）
- ①Perl によるテキストファイル検索とその DB 化による検索速度の比較
    - Perl のスクリプトで検索していた所蔵雑誌目録のテキストファイルを MySQL の DB に作成し直し、SQL 文で検索した場合との検索速度の比較を行った。DB 化した場合の方が検索速度は大幅に速かったが、Perl でもスクリプトを工夫すれば、かなりの速度向上を計れることが分かった。
  - ② phpMyAdmin の使い方について
    - MySQL を GUI で操作することができる「phpMyAdmin」というオープンソースのツールの使い

方を研究した。DB のテーブル作成、ユーザごとの DB への権限設定などが簡単に行える非常に使い易いツールであることが分かった。このツールによって MySQL での DB 作成を効率化出来ることが分かった。

③ アンケートソフト Limesurvey について

php で書かれたアンケート作成・集計・解析用ソフト「Limesurvey」について調査・研究した。インストールは完了したが、実際のアンケート作成は今後試行する予定である。なお、アンケートソフトについては別に「phpESP」も研究対象としている。

④ XAMPP の利用について

Apache、MySQL、PHP、Perl など WAMPP、LAMPP の中心になるソフトは、個々にインストールすると設定や相互の連携調整が意外に面倒である。WAMPP に必要な Apache 以下の主要ソフトを纏め、予め設定・調整を済ませてパッケージ化した XAMPP と言うソフトがある。来年度に、研修委員会と共催で DB 作成を中心にした講習会を開く予定があり、環境として USB メモリーにインストールしても使える XAMPP の利用を予定している。

これに備えて XAMPP を集中的に研究した。

⑤ その他、メンバーが日常的な場面で遭遇した諸問題(PCトラブル、文字化け、Windows と Linux のデュアルブート環境の構築等々)について、相互に意見を出し合って解決をはかった。これによって PC や OS の基本についてより幅広い知識を得ることが出来た。また、Perl を使ったテキスト処理などについても理解を深めることが出来た。

(5) ターミノロジー部会 会員：10名(コアパーソン：太田泰弘氏) (隔月開催)

情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催し、2009年度は6回実施した。

・2009年度実施内容：

- ・第31回(5月29日)今後の活動に関する自由討議
- ・第32回(7月28日)自然言語処理：翻訳および用語抽出の現状(講師：井佐原 均)
- ・第33回(10月2日)歴史地理学の創成研究(講師：石川徹也)
- ・第34回(11月6日)ISO/TC37 総会(ボゴタ、2009-08)会議報告(講師：山本 昭)
- ・第35回(2月5日)私の履歴書：主として文献情報処理関連黎明期(講師：喜多村政美)
- ・第36回(3月12日)中国における専門用語活動の現状：“中国技術語”掲載論文の展望を通じての論評(講師：太田泰弘、諏訪秀策)

## 10. 関連団体との交流

(1) 会員として加入

- ・(財)機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・(独)科学技術振興機構 賛助会員(継続)
- ・東京商工会議所 賛助会員(継続)

(2) 他団体より後援を受けたもの

専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報処理開発協会、日本図書館協会

(3) 他団体に共催、後援、協賛したもの ( ) 内は主催団体名

- ・平成 21 年度専門図書館協議会全国研究集会 (専門図書館協議会)
- ・特許検索競技大会 2009 ((独) 工業所有権情報・研修館)
- ・TP&D フォーラム 2009 (TP&D フォーラム実行委員会)
- ・関西地区 2009 年度研究会 (アートドキュメンテーション学会)
- ・第 8 回研究大会 (情報メディア学会)
- ・第 21 回専門用語シンポジウム (情報知識学会)
- ・第 125 回記録管理学会例会 (記録管理学会)
- ・第 14 回情報知識学フォーラム (情報知識学会)
- ・情報活動研究会 など